

* * * *

イノデ属に属するシダ類 17 種 5 変種の染色体数を報告する。そのうち 10 種はすでに染色体数が報告されているものについての再検討であり、8 種 1 変種が今回あらたに観察された。結果は表 1 と図 1-22 に示されるように、いずれも 41 を基本数とする数が観察された。

○大深当帰の花芽抑制の一方法 (岡田 稔) Minoru OKADA: On the flower-bud control of medicinal angelica "Obuka-toki" (*Angelica acutiloba* Kit.)

芽折りとは大深当帰の苗を春 (四月上～中旬) 本畑に定植する際行なう方法である。大深当帰苗の成育の良いものは、その年中に抽苔して花が咲くとその年に枯れる (北海当帰は栽培中に抽苔しても殆んど枯れないし、大深当帰ほど抽苔もしない)。そこで大深当帰の栽培には、頂芽の芯の部分を竹べらで折 (即ち形成された花芽を取る)、多数の輪生している側芽の生長を促す、所謂芽折りを実施するのである。この芽折り法は一般には竹べらで折る方法が行なわれ、薬草栽培の図書にもこの方法が記載されている。しかしこの方法は労力がかかり、又定植した際その芽を折った所より腐る率が多い為、奈良県吉野郡下市地方では最近次の方法で行なっている所があったのでその大略を記する。

奈良県吉野郡下市町広橋辺では、四月三日頃から約 1 週間芽折り作業を実施している。四月二十日をすぎると成育が非常に悪くなるのでこの時期が良い。芽折りする前処理として、晩秋掘り出して春迄貯蔵の為仮植しておいた当帰苗を畑から掘り起し、再び苗を丸い輪の様に並べ替え、その上に 2~3 cm 位軽く土をかぶせ、段々に苗、土の順に次々に約 30~40cm 位の高さに積み重ねて置き、芽折りをし易くする準備をする (土の中へ入れて土の水分、夜つゆ及び地熱とで、頂芽を柔かく徒長させる為であるし、又本畑に移植した時も成長が良い)。この様に輪状に仮植して約 1 週間放置後掘り起し、芽折りを実施する。この芽折り法は左手で根の部分を、右手で新芽の部分を持ち、軽く折り曲げ、引き抜く様にして頂芽の芯の部分を取るのである。この際なるべく苗を傷めず、苗の側芽の部分を特に傷つけない様にする事である。

尚奈良県吉野郡の大部分は従来通り頂芽を竹製の小刀 (竹べら) で芯を折り取る方法を実施している。そして前述の頂芽を引き抜く方法は、最近の最も適切な方法であると思ったので記させて頂いた。

終りにこの方法につき御教示下さった奈良県下市町の南信市氏と御案内していただいた桜井市の福田真三氏に感謝致します。
(津村研究所)